

審議会等の会議結果報告書

【担当課】文化財課（八ヶ岳総合博物館）

会議の名取委員委員 委員 称	茅野市博物館協議会		
開催日時	平成 26 年 6 月 17 日（木） 午後 6 時 00 分～午後 7 時 50 分		
開催場所	八ヶ岳総合博物館 研究室		
出席者	浜委員長 浅川副委員長 赤羽委員 岡野委員 沖野委員 小口委員 河西委員 小平委員 関塚委員 戸田委員 名取委員 根橋委員 藤森委員 牛山教育長 木川生涯学習部長 守矢文化財課長兼尖石考古館長 若宮八ヶ岳総合博物館長 小池尖石縄文考古館係長 田村神長官守矢史料館長 小林八ヶ岳総合博物館係長 柳川八ヶ岳総合博物館主査		
欠席者	中村委員		
公開・非公開の別	(公開)・非公開	傍聴者の数	
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
木川生涯学習部長	1 開会 2 教育長あいさつ（代理 木川生涯学習部長） 市民研究員との連携を深め、協力し合いながら、できるところから、事業を行っていききたい。皆様に使われる、愛される博物館にしていききたい。		
守矢文化財課長兼 尖石縄文考古館長 牛山教育長	3 新任委員の委嘱 4 委員の自己紹介 5 職員の自己紹介 6 協議事項 平成 26 年度の事業計画について （尖石縄文考古館・青少年自然の森 平成 26 年度事業計画 説明） （教育長あいさつ） 茅野市の 3 館の博物館に非常に光が当たってきた、多くの人たちから注目されている状況になってきている。さらに 3 つの博物館を中心として、市民の学びに貢献できるような博物館にしていききたいので、忌憚のない御意見をいただきたい。		
浜委員長	『国特別史跡「尖石石器時代遺跡」』の保存管理計画の作成とあるが、これまでであったと思うが。		
守矢文化財課長	これまで作成したものは、「整備基本計画」である。保存管理計画は、史跡をどのように保存し、整備を進めていくか、これまでは、整備の話を進めてきたが、それより保存が第一だということで、これは文化庁の指導によるものだが、保存管理計画を作成している。これからは、遺跡をどのように保存して、整備・活用することが重要になってくるために、基礎的な部分である保存管理計画を、今年度作成していく。地形や植生など、細かい保存管理計画を作成しなければならない。		
浜委員長	現在無料開放を行い、入館者が増加しているようだが、無料開放が終了した後は、どのような企画を行っていくのか。		

守矢文化財課長	団体の予約状況を見ると、若干ではあるが、話題性が高いので昨年より多くなっている。7月の最終週はやりくりが大変である。
浜委員長	風除けの松周辺の景観はとても素晴らしい。入館者が増加しているので、尖石縄文考古館周辺（以下、「考古館」）の自然の景観が素晴らしいので、整備し、入館者に広めてほしい。
守矢文化財課長	現状を保存し、改変しないようにすることも仕事の一つである。今後とも景観を守っていきたい。
岡野委員	考古館へのアクセスするための交通網の整備がまるでできていない。行政としてやるべきこと、民間の事業者、バス業者がやるべきこと、それぞれやるべきことはあるのだろうが、茅野市全体を挙げてやるべきことはやるということであれば、少々足が出てその先で取り戻せるのではないかと思う。茅野市として対応を考えた方が良い。この状況は非常に動きが悪い。来ても帰りのバスを考えると1時間しかいられないとか、そのようなケースがあるので、来館者のために、ある意味我々自身のために何か手当をするべきだ。
守矢文化財課長	青少年自然の森は、今年度冬季は閉鎖することを聞いているが、とてもいい場所であるし、利用価値は高いと思う。縄文時代は冬も縄文人は生活していたので、その状況を知ってもらうために、冬も開館していた方が良いのではないか。私の専門は環境教育なので、体験学習といった観点からも、冬季は開館するべきだ。せっかく10月まで様々なイベントを開催して来ていただいているので、その延長として、冬場に色々な体験ができるというプログラムを作りたい。茅野の冬を楽しむ、縄文の冬を楽しむということを考えて方がいいのではないか。
守矢文化財課長	バス等の交通機関の整備については厳しい状況である。考古館に来る路線は、廃線という話もあった。現在は登山客の時間帯に合わせて設定がされている。観光のラウンドバスも、毎日というわけにはいかない事情がある。増便の件については、事業者と交渉しなければならない。来館者の動向を見ると、マイカーで来館する人が多い。
根橋委員	青少年自然の森については、冬場の統計を見ると、ほとんど利用者がいない。コストの問題を考えていくと、非常に厳しい。常に開館しているのではなく、岡野委員が言う通り冬の鳥や自然を見てもらうといった、冬場でしか体験できないことを企画すれば、施設は閉鎖してしまうが、企画を立てられれば、青少年自然の森の価値を見直すいい機会になるのではないか。ポイントで何かできるかを考えてみたい。考古館周辺の野鳥展を館内で開催しているので、こうした機会を利用していきたい。
守矢文化財課長	土偶が国宝に答申され、非常に注目されているが、セキュリティはどうなっているのか。
守矢文化財課長	平成12（2000）年に、考古館が改築したが、改築した理由が国宝を展示するに足る施設にするためだった。セキュリティは、その時に対応している。
関塚委員	縄文プロジェクトで話に出たが、仮面の女神と縄文のビーナスを別の部屋に展示できないか。 八ヶ岳総合博物館（以下、「博物館」）もそうだが、もう少し展示を工夫して欲しい。常設展の展示について、説明が少ない。学芸員に説明される

	とよくわかるので、学芸員に説明してもらえ体制を整えていただきたい。考古学の知識のある人はわかると思うが、知識のない人にはわかり辛い展示だと思う。考古館も、そのような視点で展示替えをしていただきたいと思う。
守矢文化財課長	国宝土偶の展示室自体がセキュリティになっている。2つの展示室にするには、多額の予算が必要であり、再構成するには、予算と時間がかかる。
河西委員	常設展示は、可動式になっているので、人手と若干の費用で変更できる。考古館への交通手段についてだが、ビーナちゃんバスが巡回することはできないか。また、路線バスで付近に来る路線で回ってもらえないか。研究してもらいたい。
浜委員長	現在の展示は面白い。国宝の土偶以外に、壊された土偶が色々あって面白い。小型の土偶と大型の土偶が対比できるのはいいと思う。
若宮博物館長	(八ヶ岳総合博物館 平成26年度事業計画 説明)
関塚委員	八ヶ岳総合博物館にも縄文のビーナス・仮面の女神の展示があった方がいいのではないか。今度複製をつくと聞いているが、それを展示できないか。
木川生涯学習部長	土台付で贈答用である。
守矢文化財課長	レプリカは数が少なく、また、新たにレプリカを作らなければならなくなる。
関塚委員	博物館の展示にパネルがちょっと変わったような気がする。もっと増やした方がいいのではないか。特に鉱物の所の説明パネルが無く、惜しいと思う。また、各コーナーに自由に取ることができる展示解説のプリントがあるが、鉱物の所になかったが、必要である。解説のプリントや展示パネルは、小・中学生にわかりやすいようにしてほしい。
	現在、諏訪東京理科大学の学生が、坂本養川の汐について研究しているが、東京書籍の小学校4年生の教科書が図書館にあって初めて見たが、坂本養川について数ページにわたって掲載されており、非常に大きく取り扱われている。坂本養川コーナーに、この教科書が置いてあった方がいいのではないか。
浜委員長	諏訪教育会館で、教科書を無料で配っているの、貰ってくれば良い。土偶のレプリカ展示ができればいいと思う。新たな解説パネルは作り始めたのか。
若宮博物館長	子どもが見てわかりやすい物を作り始めた。秋には形にしたいと思っている。解説プリント等、持って帰ることができる資料を増やしていきたい。教科書についても対応したい。
浜委員長	藤森委員は、土偶作りの大家なので、言えば作ってもらえるのではないか。
沖野委員	昨年「きのこ」の時に立派な図録を作成したが、後で見返すことができるし、保存ができるということで、企画展ごとに図録を作った方がいいと思う。
柳川博物館主査	予算的には難しい。本年度は、企画展「九頭井大夫家文書の世界」だけは、予算がある。
沖野委員	図録を作っておけば、博物館資料として充実できると思う。
岡野委員	日本全国の科学博物館等行政の規模にかかわらず、ユニークなことを行

	<p>っているところがたくさんある。展示は一度作ってしまうと、後は全く手がつかない。多額の予算を使って固定展示をしてしまうと全く手がつかないということになってしまう。</p> <p>地元のことを地元の子供たちに学んでもらって展示を作ってもらった方がいいのではないか。季節やテーマによって変化をつけて展示すればいいのではないか。物作りや自然について知っている人が多くいるので、市民研究員だけではなく、子どもたちに学べるチャンスを持ってもらい、それを展示に生かしていくというようにすればいいのではないか。自分たちが作ったものがあれば、子どもが来る。子どもが来れば親を連れてくるという循環を作った方がいい。</p> <p>岩石などの自然系のものは、博物館の敷地が広いので、外に展示した方が良い。</p> <p>茅野市は、様々な所に自然・文化で良い場所があるので、それらが茅野市にとっての財産であるので、そこに人を連れて行って展示と言ってしまう方がいいので、自然の展示はたくさんある。学びと展示がリンクできたらいいと思う。</p>
若宮博物館長	<p>できるだけ、子どもたち、市民が来て拠点にできるといいと思う。外にある本物の自然、博物館から外へ、外から博物館へという流れが展示の中にないといけないと思う。しかし、博物館には場所が不足している。もう少し館内で活動ができる場を増やしたい。</p>
浜委員長	<p>市民研究員の成果を紀要に掲載するとか、展示するなどできないか。そういうことをやれば、励みになり、活動が活発になるのではないか。</p>
若宮博物館長	<p>展示については、3月の活動発表展で行った。この展示を見て、市民研究員に応募してきた人がいた。I期3年で市民研究員を行っているので3年で一つの区切りとして、報告書を刊行したい。活動について、昨年度は紀要に活動報告を掲載した。</p>
田村史料館長	<p>(神長官守矢史料館 平成26年度事業計画 説明)</p>
浜委員長	<p>入館者は増えているか。</p>
田村史料館長	<p>今年の1年までは、非常に多くの入館者があったが、2月の大雪以来、入館者が減少している。本年度も順調ではあるが、昨年ほどには増えていない。</p>
関塚委員	<p>所蔵している古文書が千数百点あるというが、それはどこに収蔵されているか。</p>
田村史料館長	<p>2階に収蔵庫があり、そこに収蔵されている。毎日湿度管理をしている。</p>
関塚委員	<p>毎年1~2回、神長官守矢史料館(以下、「史料館」)に行くが、史料をもっと見たいと思う。もう少し広く展示してもらいたい。</p>
田村史料館長	<p>展示スペースがない。史料館建設時には、収蔵だけを考えて作られた。</p>
岡野委員	<p>史料館など、興味がある人は、どこへでも行くと思うが、逆に、こちらから史料を持って、東京など日本中で出前講座ができないか。そのようなことをすれば、関心が高まると思うが、今まで、そのようなことは行っていないか。</p>
田村史料館長	<p>去年は世界中から人が来た。また、色々皆様のご意見を伺いながら、できるところから工夫をしていきたい。</p>
赤羽委員	<p>茅野市内の小学校の5年生と中学1年生は、青少年自然の森に行くこと</p>

	<p>になっているが、朝起きると鳥の鳴き声をする。この時に、自然の解説ができる人がいればいいと思う。</p>
若宮博物館長	<p>博物館の出前講座で、星空観察会を去年から行っている。小学生が泊りがけで行けるときに手伝っている。市民研究員に力が付けば、できると思う。星については、依頼があれば協力している。</p>
浜委員長	<p>学芸員の人数が少なく、予算が無い中でよくやっている。博物館が市の教育センターに相応しいように、教育長にお願いしたい。</p>
沖野委員	<p>3館共通して、行くにはマイカーだよりだ。電車で来た人のアクセスを考える必要がある。タクシー会社と提携してサービスできるようになれば良いのではないか。高齢化社会となるので、いつまでもマイカーではないと思う。</p>
関塚委員	<p>福祉関係だとボランティアで送迎があるが、送迎のボランティアを組織できないか。</p>
木川生涯学習部長	<p>福祉の方では、社会福祉協会で行っているシステムはあるが、それを芸術文化の面で考えていかなければならない。</p>
関塚委員	<p>考古館でホテルの送迎バスのようなことはできないか。現在の路線バスでは対応できていない。何か工夫しないともらったくない。</p>
沖野委員	<p>観光案内所に行けば交通機関を紹介してもらえるようにすればいい。</p>
木川生涯学習部長	<p>できるかわからないが、縄文プロジェクト構想を練っている中でミニ展示があったらいいという話がある。そのような意味を含めて工夫しなければならない。</p>
関塚委員	<p>考古館の周辺にトイレが少ないような気がする。縄文の湯の上あたりにあった方がいいと思う。</p>
	<p>その他</p>
若宮博物館長	<p>平成26年度から、博物館の企画運営会議を行うことになった。</p>
小林八ヶ岳総合博物館係長	<p>次回の博物館協議会は、平成27年3月を予定している。その時は、事業報告を行う。</p>
	<p>閉会 ～午後7時50分終了～</p>